西会津中学校　学校だより

雄飛

令和４年１１月３０日発行
１２月号　Ｎｏ．９
発行者　校長　佐藤　崇史

【教育目標】
未来の可能性を創造していく生徒

自主　自律　敬愛　健康

読解力を高め、対話の充実を～これからの社会で必要な力～

１１月４日、福島県「ＡＩ時代を生き抜く読解力向上事業」の研究協力校として、西会津小・中学校で公開授業研究会を開催しました。当日は、コロナ対応の徹底ということで、小中学校の実践報告と教育のための科学研究所の目黒朋子先生のご講演をオンラインで実施し、公開授業については参加予定の先生方に動画配信するという形式で行いました。

ご講演をいただいた目黒先生の話の中で、「21 世紀は『生涯学習（リスキリング)』の時代と言われています。グローバル化やテクノロジーの進化により、働き方も求められるスキルも変化しつづけます。では、生涯学び続ける上でもっとも重要となるスキルはなんでしょう。それは読解力です。自学自習をするには、専門的な知識がない人向けに書かれた文章（教科書、新聞、辞書等）を、文理の別なく、正確に読み解き、正しく推論する力、リーディングスキルが不可欠です。」という内容がありました。

私たちは言葉で学び、発信をします。改めて、様々なテキストを苦にせずに読んで学ぶことのできる力がこれからの子どもたちにとって必須のものだと感じました。何より「自分で学ぶ」ためには、読解力が大切なのだと強く思います。

読解力を身につけるということは、これからの社会で必要とされる「対話力」をつけることにも大きく関連します。相手の発する言葉を正しく理解できなければ、対話をすることはできません。自分の発した言葉を相手がどう受け止めるかを予測できるかどうかは、読解力があるかどうかにつながります。

読解力をつけるためには、言葉や文の解像度を上げることが必要です。解像度を上げるということはどういうことかを「リンゴ」を例にして説明します。言葉としてのリンゴは３文字です。その言葉は誰もが知っている果物のリンゴを指しています。では、リンゴを言葉ではなく絵で描いてみましょう。色、形、大きさなど情報量が飛躍的に多くなります。リンゴをデータや数値として表すと値段や等級など、さまざまな意味を表すかもしれません。さらには、リンゴが木から落ちるという重力との関係を考える人もいるかもしれません。そのように、様々な観点から考えることで、リンゴという言葉のイメージが鮮明になります。つまり言葉の解像度が上がるのです。表現されている言葉や文を解像度高く読むことは、相手と言葉のイメージを共有することになり、対話をする際の言葉の理解が共有されるようになるということです。

2030 年までに世界で達成しようという国連の目標であるＳＤＧｓには「誰一人置き去りにしない」という理念があります。グローバル化、多様化が進み、たくさんの異なるものが混ざり合う中で、誰一人取り残さない社会を目指すためには、自分とは違う人たちの意見に耳を傾け、対立を克服する力が必要です。そのために、「対話力」が重要になるのです。対話をする際には、言葉や文の理解がズレていたり、言葉の理解に齟齬があったりする状態では、合意にいたる対話にはなりませんし、そもそも対話が成立しません。合意にいたる対話には、お互いに同じ理解をもとにすることが大前提になることを考えると、「対話する力」が求められるこれからの社会を生きる子どもたちにとって、「読解力」が大切であることが改めてわかります。

他者の考えを理解し、誰一人として置き去りにしない社会を目指すために、その基盤となる読解力を子どもたちにしっかりと身に付けてほしいと強く思っています。

語り合えば語り合うほど他人と自分との違いがより繊細にわかるようになること、それが対話だ（鷲田清一）

３学年アントレプレナーシップ学習発表　～ここからさらに前進を～

これからの社会で身に付けるべき力としての「対話力」と関連して、「プレゼン力」があります。アイディアの実現に向けて努力してきたアントレプレナーシップ学習の中学校での最終形について、３年生がプレゼンテーションを行いました。これまで身に付けた「プレゼン力」を駆使した、わかりやすいプレゼンでした。西会津の未来を考えることが、これからの社会を考えることにつながっていると感じました。もちろん、本当の実現まではまだまだ距離があるかもしれません。しかし、これが第一歩です。これからの社会に当事者意識をもって考えることができたことがこのアントレプレナーシップ学習の何より素晴らしいことだと思います。ここで止まらず、将来に向けて次の一歩を！

３年生卒業証書づくり～今年度も伝統の出ヶ原和紙づくりに～

今年度も、西会津伝統の出ヶ原和紙を使って、自分たちの卒業証書を作ります。先日、3年生がその和紙作りに取り組みました。2日間で楮（こうぞ）の木の皮を剥ぎ取って、叩き、紙すきまで体験し、自分たちの卒業証書になる和紙の原型を作成しました。自分たちで作った、西会津町の伝統の出ヶ原和紙でできる卒業証書。他にはない一生の記念の卒業証書です。自分で作ったという当事者意識は、他の証書とは違う、本当に一生の記憶に残るものになると思います。世界で一つだけの卒業証書の完成が楽しみです。

校内駅伝競走大会　～みんなで力を合わせて笑顔でゴール～

１１月２日の３・４校時に校内駅伝大会を実施しました。どの学年もお互いを応援しながら、最後まで襷をつなぎました。各学年５チームがエントリーし、全員が一生懸命に走る姿が印象的でした。何より、チームメイト、クラスの友達、先輩後輩を大きな声で応援する姿はとてもすばらしかったです。そして、どの学年も最後は笑顔での集合写真を撮影しているのも、素敵でした。長距離を走るということはつらいことであるはずなのに、仲間と力を合わせることは楽しいのだと感じずにはいられません。こういう行事を楽しく実施できるのも西会津中の素晴らしさだと思います。頑張ることが楽しいと思ってくれているとうれしいです。

先輩に聞く会　～西会津中卒業の先輩から３年生へのメッセージ～

１１月１４日に本校の卒業生である佐藤憲次様から３年生に向けて、今年度もご講演をいただきました。佐藤憲次様は、本校の卒業生で、東京大学卒業後、現在は三菱重工とデンマーク Veatas 社の合併会社で日本向け洋上風車の設計を行うなど、世界でご活躍されています。「色々なことに取り組むことが自分のやりたいことを見つけるチャンスにつながる」「リスクテイカーになることも時には必要」「変化をポジティブにとらえよう」などたくさんのメッセージをいただきました。洋上風車という持続可能な社会の実現に向けた具体的なお話もあり、ＳＤＧｓの理念の実現を目指す生徒たちにとって、当事者意識をもって取り組む機会をいただきました。

光の表現ワークショップ　～アートとテクノロジーの融合～

１１月１８日（金）と１９日（土）の２日間、西会津中学校にパナソニックの方々がお見えになり、「光のワークショップ」を実施してくださいました。プログラミング教材の「スクラッチ」で光を操り、生徒たちが自分たちのイメージを実際の形にし、光で表現していきます。

生徒たちの発想の豊かさ、イメージを形にしていく力の大きさを感じました。何より、楽しそうに「光」を使って創作していく姿に、言語や数学だけではないアートの学習の重要性（ＳＴＥＡＭ教育）、そして、実際にやってみること、体験することの大切さを実感した２日間になりました。

１２月の予定

- １日（木）
- ２日（金）
- ３日（土）ビブリオバトル県大会、数学検定
- ４日（日）町少年の主張大会
- ５日（月）手作り弁当デー、全校レク大会
- ６日（火）後期専門委員会中間反省
- ７日（水）第１０回職員会議
- ９日（金）第１回調査書作成委員会
- ２０日（火）第２回調査書作成委員会
- ２２日（木）研幾堂語り
- ２３日（金）第２学期終業式